奈良県

茶のIPM実践指標モデル

次の管理項目や管理ポイントを例にして、
地域の病害虫や雑草の防除状況に応じたモデルをつくり
IPMに取り組みましょう。

管理項目	管理ポイント	取り組みの○×チェック	
		昨年は？	今年は？
病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入手し、確認する。		
病害虫や天敵の観察	ほ場内の病害虫や天敵の発生状況を定期的に観察する。		
土着天敵の活用	寄生蜂、ケナガカブリダニ等の天敵の生態を理解し、影響の少ない薬剤を選択するなど、その活動を保護する。		
農薬の使用全般（共通）	個々の農薬の効果特性を理解して、最適な薬剤を選択する。		
	農薬ラベルに書かれている使用基準を守る。		
	病害虫が薬剤抵抗性を獲得するのを防ぐため、同じ農薬を繰り返し使用しない。また、薬剤抵抗性が確認されている農薬は使用しない。		
	十分な薬効が得られる範囲で、最小の使用量となる最適な使用方法を考える。		
	風向きや散布圧に注意し、周辺に農薬を飛散させないようにする。		
	散布器具、タンク等の洗浄を十分に行う。なお、洗浄水は河川等に流入しないように注意する。		

管理項目	管理ポイント	取り組みの○×チェック	
		昨年は？	今年は？
除草	除草剤のみに頼らず、敷きくさ、敷きわら、刈り払い機などでの除草も実施する。		
作業日誌	作業内容や病害虫・雑草の発生状況のほか、農薬を使用した場合は、その名称、希釈倍数や使用量などを記録する。		
	作業日誌は、概ね３年間保管し、次作の参考にする。		
研修会への参加	県や農協などが開催する栽培講習会、ＩＰＭや農薬安全使用に関する講習会などに、年に１回は参加する。		